

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛知県岡崎市立形埜小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒444-3435
愛知県岡崎市桜形町字中嶋13番地

E-mail katano@st.oklab.ed.jp
Website <http://www.oklab.ed.jp/weblog/katano/>

児童数 男子 25 名 女子 30 名 合計 55 名
児童の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

形埜小学校は、岡崎市北東部に位置する山里の丘の上にある学校である。全校児童55名と教職員19名が心と力を合わせて素晴らしい学校づくり・授業づくりに取り組んでいる。へき地1級地に指定されている小さな学校であるが、歴史と伝統ある学校であり、「おらが村のおらが学校」と地域の人に支えられ、地域と共に歩んできた学校である。

豊かな自然に恵まれ、地域の人々の熱い思いに支えられて特色ある教育活動を展開してきている。

49年間続く伝統の心を育てるFBC(フラワー・ブラボー・コンクール)花壇づくり活動、25年目を迎えた乙川水質調査・保全活動、18年継続している「かたのササユリの里育成会」の方と共に山里に咲くササユリの調査保護活動を

行っている。さらに「木の芽学習」（生活科・総合的な学習の時間）という本物に出会い、体験を通して学ぶ学習活動を豊かに展開している。

1年生は、カブトムシ博士に学ぶカブトムシの飼育観察活動。2年生は、地域の祖父母を先生にしての野菜作り体験と本物の子牛の飼育体験。3年生は、山里の形埜の宝・ヤママユガ（天蚕）の飼育観察体験と学区に3000本を数えるササユリの調査観察体験。4年生は、乙川の川探検や魚の飼育観察活動。5年生はふるさとの森とふれ合い、森に学ぶ活動。6年生は、乙川の水質調査活動の継続を軸にしたふるさと形埜の自然を守ると共に、形埜学区について情報を発信する活動。このように各学年の子どもの発達段階や教科学習との関連、形埜小学校が伝統的に取り扱ってきた地域素材などを踏まえて、追究内容と単元を構想し、授業実践を展開してきた。



1年 カブトムシ学習



2年 子牛の校内飼育活動



3年 ササユリ観察活動



4年 学校川での飼育用魚捕り



5年 木の駅プロジェクト（間伐体験活動）



6年 愛知県野生生物保護実績発表大会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">・「自然の観察辞典⑱ ヤママユガ観察辞典」 偕成社・「ユリをつくりこなすー開花調節と高品質栽培の実際」 農文協・「淡水魚ガイドブック」永岡書店・「世界の森と暮らし」(自然の中の人間シリーズ「森と人間編」①) 農文協 等
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

木の芽学習（生活・総合）を中心に、「ふるさと形埜に根ざしたESD」をテーマに全学年、木の芽学習の年間計画とESDカレンダー（右表参照）を毎年作成している。年度当初と年度末に見直しをしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

毎年、愛知教育大学非常勤講師（生活）及び岡崎総合的な学習研究会会長の荻野先生を招いて、木の芽学習授業研究会を行っている。
木の芽学習の各学年の研究実践、実践資料として木の芽学習年間計画・ESDカレンダーをまとめた研究紀要を毎年、年度末に作成している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、1月末に保護者・教職員を対象にしたアンケートを行っている。
Aよくあてはまる～Dまったくあてはまらないの4段階評価。
・「学校は、特色ある教育活動を展開している（FBC活動・水質保全活動など）」（保護者への質問）A 95% B 5%
・「学校は、特色ある教育活動を充実させている（FBC活動・水質保全活動・ササユリ保護活動・木の芽学習等々）」（教職員への質問）A 100%
※「ふるさと形埜に根ざしたESD」をさらに邁進していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

8月3日、愛知県野生生物保護実績発表会に学校を代表して6年児童4名が参加し、ササユリ保護活動について発表をした。愛知県自然観察連絡協議会賞をいただくことができた。

2月16日の授業参観で、木の芽学習発表会を行った。形埜の自然を守り続けたいという各学年の子どもたちの熱心な思いは、保護者への啓発となった。

等

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

3年生が、「かたのササユリの里育成会」の方々と協働・交流し、ササユリの保護・観察活動を行った。

5年生が、「額田木の駅プロジェクト こども体験会」の方々と協働・交流し、樹木の間伐体験学習を行い、額田の森を守る一助を担った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

ササユリ保護活動先進地の一つとして、岡崎市立新香山中学校に本校3年生が訪れた。ササユリ担当の校務主任の先生から新香山中学校でのササユリ保護活動の話聞くことができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ESDの視点でふるさと形埜の「人・もの・こと」を生かした教育を継続する中で、本物や実物と出会い、触れて学ぶことができる各学年の体験活動ががっちり決められ、他校にない感動的な学習が展開できている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今後も、ESDの視点でふるさと形埜の「人・もの・こと」を生かした教育を継続していきたい。環境教育を中心に、ふるさと形埜に根ざしたふるさと学習の実践が展開できている。また、学年の発達段階に応じて、低学年から高学年へと発展を見通して、単元を構想することもできている。しかし、活動が進めやすい反面、内容が固定化されているためにややマンネリ化している傾向も感じる。今後は、地域に働きかけ、地域と関わる視点をより深く分析し、また新しい発見と深い感動を伴う学びが実現するように研究・活動を深めていきたい。さらに、次期学習指導要領にもつながる「主体的・対話的で深い学び」を中心にとらえ、今までの単元の組み直しや授業展開の工夫をしていくことも考えている。そして、形埜小学校で学ぶことにより、地域に根ざした持続可能な社会の担い手としての自覚を身につけた児童が一人でも多く育ってくれることを目標に活動をさらに推進したい。